

(令和3年度単年度経営計画)

(一財)京都市防災協会	令和3年度経営計画 兼 経営努力結果
-------------	-----------------------

基本事項

所管局課	消防局総務部総務課	本市出えん金	10,000 千円
基本財産/資本金	10,000 千円	本市出えん率	100.0 %

当年度の取組目標

業務面	<p>目標 「センターの利用促進及び防災意識の高揚」</p> <p>京都市市民防災センターの利用促進のため、地震や異常気象等をテーマに、学識経験者によるタイムリーな防災情報の提供に努める。また、市民のニーズを具体的に把握するため、来館者アンケートを実施し、その分析結果を踏まえた窓口サービスの充実向上等に総合的に取り組む。</p> <p>防災意識の高揚のため、自発的な防災・減災行動及び地域住民同士の共助につながる防災指導に重点的に取り組む。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、令和3年度も引き続き体験施設の利用制限が必要となる。感染症の収束時期が見通せないことから、令和3年度は入館者数の目標値を設定せず、翌年度に改めて設定する。</p>
財務面	<p>目標 「健全な財務運営」</p> <p>社会全般の人件費、物件費等の上昇等を鑑み、引き続き「当期経常収支0」としつつ、安定的な収支黒字化にむけて、経費節減、合理化等に努める。</p>
組織面	<p>目標 「人材育成及び職員教育」</p> <p>京都市の消防・防災行政と一体的かつ有機的に連携した質の高い組織運営を図るため、財団の運営を担う人材育成及び職員教育を強化する。</p>
その他	特になし

当年度の取組目標に対する意見

所管局	<p>指定管理業務については、新型コロナウイルス感染症予防対策を踏まえ、各種防災体験、学識経験者による防災情報の提供等のやり方を工夫し、防災意識の普及啓発事業の充実及び各指標の達成に向けた効果的な事業展開を行うとともに、法定講習事業等の行政補完事業と合わせて、着実な事業推進に取り組んでほしい。</p> <p>また、引き続き健全な財務体質を維持しつつ、安定的な財団組織の運営に努めてほしい。</p>
-----	---

当年度の取組目標に対する総括(※)

団体	<p>4月25日から5月31日までの緊急事態宣言中は、施設の臨時休所にともない、施設を閉鎖したが、この期間に実施できなかった講習会については、可能な限り別日に日程を確保して講習会の開催に努めた。また時期を失することなく国の助成金を活用するなど財政安定化にむけた取り組みを継続しつつ、可能な限り施設利用の拡大に努めた。未だ収束への光が見えない状況の中ではあるが、当協会の設立趣旨をしっかりと踏まえた中で、防災思想の普及を図り、引き続きアフターコロナに向けた施設利用拡大を積極的に進めていく。</p>
所管局	<p>臨時休所に伴い、防火防災関係講習及び救急講習の一部を中止したが、臨時休所後は定員を抑えつつ、別日程での開催や実施回数を増やすなどの対応を実施し、より多くの受講希望者を受け入れられるよう対応している。講習中止に伴う減収に対しては、施設内の経費節減や国の支援制度の活用、別日程での講習開催等により、収益増の取組を実施している。</p> <p>また、体験施設についても予約制の導入や新たに事業所研修コースを設けるなど、感染対策に配慮しつつ、新たな取組を実施し、入館者数増だけでなく、個別のニーズに対応した取組も実施している。</p> <p>窓口サービス評価においては、「接遇」、「説明」等全ての項目において高い評価を受けており、来館者からのソフト面での満足度が高い結果となっている。</p> <p>先の見通せないコロナ禍ではあったが、当年度の目標に対し、十分な取組を実施している。</p>

(一財)京都市防災協会	令和3年度経営計画 兼 経営努力結果
-------------	-----------------------

(1)業務に関する取組

目標「センターの利用促進及び防災意識の高揚」

当年度目標	京都市市民防災センターの利用促進のため、地震や異常気象等をテーマに、学識経験者によるタイムリーな防災情報の提供に努める。また、市民のニーズを具体的に把握するため、来館者アンケートを実施し、その分析結果を踏まえた窓口サービスの充実向上等に総合的に取り組む。 防災意識の高揚のため、自発的な防災・減災行動及び地域住民同士の共助につながる防災指導に重点的に取り組む。 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、令和3年度も引き続き体験施設の利用制限が必要となる。感染症の収束時期が見通せないことから、令和3年度は入館者数の目標値を設定せず、翌年度に改めて設定する。
当年度結果 (※)	防火防災に係る各種イベントについては、緊急事態宣言の発令にともない「園児の描く消防の図画展示会」及び「防災ミニイベント」の2回開催となった。前年度開催を中止した「防災講演会」は受講定員を制限し3回の開催を実施した。10月に実施した来館者アンケートでは例年同様に窓口サービスについて高評価を受け、市民の方々に対する防災意識の高揚に繋がっていることを確認した。

指標1	入館者数 (単位：人)							
目標と実績	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)
	100,000	112,159	100,000	97,105	100,000	25,991	-	28,482

指標2	防災意識の高揚（来館者のうち、自ら取り組もうとする意識をもった人の割合） (単位：%)							
目標と実績	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)
	80	80	80	80	80	80	80	97

(2)財務に関する取組

主要財務数値 (単位：千円)							
	令和元年度		令和2年度		令和3年度		備考欄
	予算	実績	予算	実績	予算	実績(※)	
経常収益	196,120	197,044	200,694	175,141	181,604	175,214	
経常費用	196,120	192,693	200,694	177,681	181,604	171,698	
当期経常増減額	0	4,351	0	△ 2,540	0	3,516	
当期正味財産増減額	0	4,281	0	△ 2,610	0	3,446	
資産合計	-	73,577	-	74,635	-	78,660	
負債合計	-	17,321	-	20,989	-	21,568	
正味財産	-	56,256	-	53,646	-	57,092	

目標「健全な財務運営」

当年度目標	社会全般のPersonnel費、物件費等の上昇等を鑑み、引き続き「当期経常収支0」としつつ、安定的な収支黒字化にむけて、経費節減、合理化等に努める。
当年度結果 (※)	当初の収支計画から厳しい財政運営となったが、国による支援策を積極的に活用し、施設内の経費節減に努めた。また1月から講習会の受講人員を増やす等、収益増を目指し財政安定化に向けた取り組みを実施した。

指標	正味財産増加額 (単位：千円)							
目標と実績	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)
	0	1,668	0	4,281	0	△ 2,610	0	3,446

(一財)京都市防災協会	令和3年度経営計画 兼 経営努力結果
-------------	-----------------------

(3)組織に関する取組

目標「人材育成及び職員教育」								
当年度目標	京都市の消防・防災行政と一体的かつ有機的に連携した質の高い組織運営を図るため、財団の運営を担う人材育成及び職員教育を強化する。							
当年度結果 (※)	質の高い組織運営を図るため、財団の運営を担う人材教育を強化するべく、研修等へ参加した。							
指標	財団運営、コンプライアンス、応対等に係る研修、講習等の受講者延べ人数 (単位：人)							
目標と実績	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)
	8	17	8	8	8	8	8	12